

第33回生駒市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和7年2月25日（火） 午前9時30分～午前11時10分

2 場 所 生駒市役所 4階 大会議室

3 協議事項

- (1) 生駒南小学校・生駒南中学校施設一体型整備事業基本計画の策定について
- (2) 学校体育施設開放事業の見直しについて

4 市側出席者

市 長 小 紫 雅 史 副市長 領 家 誠

5 教育委員会側出席者

教育長	原 井 葉 子		
委 員（教育長職務代理者）	飯 島 敏 文	委 員	レイノルズあい
委 員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

6 事務局職員出席者

教育部長	鍬 田 明 年	生涯学習部長	坂 谷 操
教育部次長	松 田 悟	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	花 山 浩 一	生涯学習課長	井 川 啓一郎
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	松 田 美奈子
教育指導課課長補佐	中 田 博 久	スポーツ振興課課長補佐	大 畑 由 紀
教育政策室（書記）	佐 竹 裕 介	教育政策室（書記）	前 田 絵三子

7 傍聴者 6名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○市長挨拶

小紫市長：本日の議題は、生駒南小学校と生駒南中学校の基本計画の策定についてということで、ここに至るまで、地域の方、保護者の方、先生方と意見交換をしてきており、大変建設的なご意見をいただいている。そういった意見を踏まえて、委員、関係者の皆様と活発な議論をしていきたい。

○協議事項

- (1) 生駒南小学校・生駒南中学校施設一体型整備事業基本計画の策定について
・基本計画策定に向けた進捗状況を教育総務課山本課長から説明【資料1～3】

小紫市長：ご説明いただいたことについて、何かご質問等ないか。

吉尾委員：資料3で実際に子どもと生活をしている先生方の意見を見ると、子どもはこういうことでトラブルを起こすのか等具体的な意見が大変参考になった。1年生から9年間を見通して、長期的に子どもたちを育てていくということが、一番大事だと感じている。自分が義務教育学校で担任をするとすれば、6年生の次が中学校1年生か7年生かで、接し方が変わるイメージがある。7年生という方が、より繋がりをイメージしやすいのではないかと。先生方の意見で、小中は分けた方がいいのではないかとという意見が多数ある。そういう意見もあって当然ではあるが、7年生という言葉がキーポイントになるのではないかとこの感覚を持っている。例えば、中学校の先生が今度来る6年生がどんな子か中学校の先生として小学校に行ったとき、小学校の先生も子どもたちもなぜ中学の先生が来たのかと構えるが、7年生の先生が6年生を見に来るのは、6年生の先生が5年生を見に来るような感覚になり、フランクに繋がれると思う。1年生から9年生という言葉も大きなポイントになると思う。長期的に交流しながら教育していく大事さを思うと、義務教育学校の選択は良いと思う。また、基本計画の21ページにもあるが、義務教育学校の課題やデメリットについて、やってみないとわからないこともたくさんあるが、想定することが大事だと思う。スタートするまでの期間を大事に使いながら、メリット・デメリットを明らかにして、子どもたちも先生方も、それに向かって準備ができる時間は少しでもたくさんとってあげたい。

飯島委員：幅広い年齢段階、成長段階の子どもたちが共に過ごす中で、中学校3年生が小学校1年生として学校に入った時を振り返った際に、先輩や先生、保護者や地域の方に助けられて育ってきたという感謝の気持ちを持つということが非常に大切なのではないかと。その中で、人間関係をより良くすることである

とか、地域の方と協力して防災の取り組みをすること等を学んでいく機会は、非常に貴重ではないか。義務教育学校のカリキュラムは普通の小・中学校と違うので、小学校から義務教育学校に行ったり、義務教育学校から別の中学校に行ったりすることはハードルが高いのではないかという印象を持たれる。しかし、学習指導要領に沿った学習を行っているため、義務教育学校と普通の小学校や中学校を行き来しても全く問題はない。同じ人間関係の中で9年間を過ごす、トラブルがあった時に修正ができないのではないかという意見はよく聞くところであるが、子どもたちは自分の置かれている人間関係をより良くする努力をした方がよい。9年間という長い学校生活の中で、人との関わりや自分の成長を捉える機会があり、先生方もその指導の機会があることで1人ひとりの子どもを細やかに見ていくことで人間関係の固定化についてはクリアできると思う。義務教育学校であるからこそ、こういう取り組みができる良い面があり、何を取り入れて、何を学校に備えていくのかを選び、決定できる。その選択を地域や学校、関わる人たちの判断に任せることができる部分が大いにある。行政が決めるのではなく、地域、学校、家庭、子どもたちそれぞれの意見を汲み上げて、個性的な学校を作っていく。そういう可能性があるという点で、義務教育学校としてスタートすることに価値があると思う。

レイルズ委員：案として、現在の小学校と中学校の敷地の高低差はあるが、それをうまく生かした施設ということで、数ヶ月の進捗具合が形になってきている。その中でどういう教育を行うのかということで、義務教育学校のメリット、デメリットを比べたときに、クリアできていないところが多いと感じている。人間関係の固定化や、中1ギャップの解消が果たして良いのか、それともあった方がよいのか、中学という環境があつてのことなのではないかという風に考えている。これからの学校のあり方として、この先30年50年を見たときに、学校のあり方、教育のあり方というところがいかに柔軟性に富んでいるかというのが一つ大きな部分であると以前からも感じている。子どもたちの増減の可能性や、地域の拠点の役割等、様々なことが時代とともに変化していく。その変化に対応できる柔軟性を兼ね備えた施設であるべきであり、教育のあり方を考えたときに、南小学校・南中学校らしさを残したやり方というのは今後も模索していけるのではないか。例えば、人間関係の固定化については、地域的な特性を考えると、小学校と中学校を分けてもあまり解消はできない。であれば、先生方の配置のしやすさや、補助金の面でも、子どもたちによりよい教育環境を提供できるという点で、義務教育学校を選択する方向性も理解できる。懸念点の部分というのは、引き続き積極的に意見をヒアリングして、検討していけると思う。引き続き今回のように意見を積極的にヒアリングして、施設の使い方を検討していったらいい。教育を進めてい

くにあたりプラスになる部分を最大限に活かしていき、懸念される部分は見直して、人間関係が変わらない上で多様性をどのように加えていくのか、様々な異なるアプローチが必要かと思う。今後、義務教育学校ということになるのであれば、しっかりと考えていく必要があると思う。

中川委員：これまで様々な学校を見てきたが、小学校・中学校の距離があまり離れていない学校であっても、卒業生が小学校の先生に会いに行くと、やはり壁がある。小中で分けていると、小学校は小学校の子どもの力を、中学校は進路も含めて中学校の子どもの力を最大限に伸ばすようにするが、小・中の間でつながりが切れてしまう。そのため、義務教育学校で小中一緒に、子どもたちを9年間見ていくということは大事なことだと思う。その子の性格や生活環境、モチベーションを上げるためにもどうすれば良いのか知っているということが大事であり、知った上で長い間関わっていく。そのように子どもたちを見ていくことがこれから大事だと思う。放課後子ども教室等で地域の方と交流することも大事だが、9年間子どもたちをしっかりと見ていこうという義務教育学校も、これからの子どもを見ていく上で大事なことであり、保護者の不安を聞き、説明しながら一緒にやっていくことが大事だと思う。卒業式や入学式等の行事については、子どもたちにとっても保護者にとっても大事であり、義務教育学校になっても大切にすべきだと思う。そういうことを話し合いながら進めていただけたら、子どもたちを大事にする生駒市が進める教育としていいのではないかなと思う。

小紫市長：委員の皆様から義務教育学校のメリットと課題について、いろいろ出していただいた。基本計画や今後の議論の中で、先生や保護者の視点など、色々な視点でメリットと課題を洗い出し、学校と並行して保護者に説明していく必要があると思う。また、子どもたちに対して、新年度に向けての成長やチャレンジの機会があるという刷新感をしっかり出していくことが、義務教育学校のみならず、小中学校でも柔軟性が必要なことだろうと思う。例えば、2分の1成人式のような取組を子どもたちがやっていきたいとなればやっていけばいい。また、卒業式について、子どもたちがどう思っているか意見を聞いていきながら、6年生でやるか、半分の4、5年生の時期にやるのか等、どう取り組んでいくのかを決めていきたい。これから南地区の人口が減らないように頑張っていけないかと思っているが、新しい学校ができることで、教育を理由に来ていただく方も増やしていきたいと考えている。中心部に比べると人口やクラス数が少ないため、問題があった際に回避が難しいのではないかなという懸念については、しっかりと考えていかなければいけないと思っている。様々な義務教育学校を見てきた中で、義務教育学校を6年生で卒業した後に違う学校に移るという学校もあれば、授業は学校でやるが部活動は違うところに行ってしまうという学校もある。学校単位の活動も変

化をしており、そういった点も総合的に考えて課題と向き合う必要があり、選択肢を持っておかなければならない。この場で9年制による課題等をどのようにしていけばいいか議論を深めたい。

吉尾委員：今まで培ってきた集団的な教育は、1年生から6年生、中学1年生から3年生という区切りで通じるものがあったと思うが、自分から発信したり自分からアクションを起こしたり、好きな形で好きに学ぶという教育をこれから生駒が目指すならば、9年間というのはとても意義があると思う。これからの教育を先生や子どもたちが認識して浸透していくにはある程度時間もかかるだろうが、生駒の目指す学校教育を進めるには、やはり9年間というのは大事だと思う。これから目指す学校教育は、幼児教育に関わってきたから思うことかもしれないが、幼稚園での教育に通じるところでもあり、就学前の教育もしっかりと位置づけないといけないと認識している。就学前の教育もやはり大事にしていきたい。

小紫市長：今後小中学校については、9年間で1つの単位で見ていくのがベースになっていく。今、吉尾委員がおっしゃったように就学前の教育がとても大切だというのはその通りであり、生駒市教育大綱でもそこまで含めて書いてある。小中学校だけということだけではなく就学前から、もっと言えば生まれた時から就園するまでどうするか、そのあたりまで見ていかなければいけない。基本的に生駒市では、中学校までを見ているわけであるが、高校や大学や社会人になった時のことを意識して、9年間で何を学ぶのか、就学前に何を学ぶのかということプラスして議論したい。義務教育学校でなければ主体的な学び、新しい学びができないとなると、既存の学校の教育が止まってしまうので、義務教育学校に限らない小学校中学校の学びが生かせるような工夫も考えていきたい。

飯島委員：義務教育学校の課題として人間関係の固定化をあげたが、それ以外にも小学校と中学校の違いや6年生のリーダーシップを発揮する時期の検討もあるかと思う。義務教育学校であるから絶対に9年生がリーダーシップを取らないといけないというわけではなく、今まで通り6年生にリーダーシップを取らせてもいい。他の学校で4年生が最高学年になる校舎があった際に、4年生が最高学年になることを不安視されていたが、実際スタートすると、4年生でもそれなりにリーダーシップを発揮してくれたと聞いている。従来の小・中学校であれば、6年生、中学校3年生が最高学年になるが、義務教育学校であれば小学校4年生にリーダーシップをとってもらおうということも可能であり、学校の意思で決めることができ、可能性が非常に開かれている。今後、義務教育段階がどういう風に分かれていっても対応できる。校舎が別々にある場合には、柔軟性が発揮できないかもしれないが、校舎が同じ場所にあって一体型の校舎であれば、価値を高めていくということができると思う。学

校文化の違いについては、学校の所在する地域の違いも校風に反映してくる。今後の考え方として、より地域に密接に関わりを持った学校を作っていくとなれば、小学校で終わるよりも、例えば防災教育の中で大人と同じようにある程度動ける中学生も集団に含めて行う方が、地域の個性的な文化が育ちやすく、地域への愛着を感じてもらいやすいと思う。これから義務教育学校に関わる方たちが、義務教育学校の課題として意識することを解消できるかどうか検討して、解消できるものは解消して、義務教育学校であるから実現できるものを取り入れていくということを今後していければ、他の学校の参考にもなる望ましい教育のあり方、子どもたちとの関わり方が見えてくるのではないか。

中川委員：小中の連携については、中学校の先生が小学校の英語の授業をしようとした際に、時間割や制度の違いで苦勞をされているのを見たことがある。そういう制度的な障害がないように、自由な義務教育学校という形で生駒らしい、新しい教育をやっていただきたいと思う。

レイノルズ委員：施設について確認をしたい点になるが、施設案をみると、職員室の場所がサブグラウンドに面しておりメイングラウンドに面していないことで、そちらの安全面はどうなのかという点と、職員室が2階にあり4階の中学生に目が行き届かないのではないかとという点について意見が出ている。指摘されている安全面をクリアするにあたって、例えば防犯カメラ等で解決していく方法もあると思うが、学校として計画はあるか。

山本教育総務課長：防犯カメラについては、今後検討するのも1つである。もう1つの案として両方のグラウンドが職員室からは見えないというところもあって、保健室を南側のグラウンドに面したところに配置することも検討している。他にも特別教室を南側の両サイドに配置する等、教員から比較的に見えやすくする工夫が今後必要だと考えている。

レイノルズ委員：あとは、メインアリーナの取り合いになるのではという意見があるが、これは北小中でも同じ状況だと思われるので、どのようにされているかヒアリングして工夫をするとよいのではないか。防犯カメラについては、南小中は新しい施設なので顔認証の電子機器を気軽に取り入れてもらいやすいと思うが、その他の学校施設においても設置する計画はあるか。

小紫市長：生涯学習の観点から体育館やグラウンドを地域開放しており、防犯カメラの設置等で南小中に限らず地域との交流の中で一定セキュリティを確保したいと思っている。プライバシーの問題に配慮しながら必要なカメラは設置する。本日の議論のまとめになるが、やはり義務教育学校が一つの方向性であるが、メリットも課題もあるので、いただいた意見を参考にしながらきちんと整理して、取り組んでいかなければならない。学校を作っていくプロセスの中で、意見をいただいて、説明をしていくというプロセスを繰り返していくことで

良い学校ができるのかなと思っている。意見交換、ワークショップ、アンケートで得た意見に丁寧に対応していくことで、大きな課題にならないように進めていきたい。一つ課題として残っているのが、南コミュニティセンターせせらぎとの連携であり、両方の施設を実際どのように活用していくのか、もう少し具体的に話をつめていければと思う。また、教育大綱には書いているが、3つのコンセプトの学びの部分で主体的な学びというのがもう少しあっても良いかと思う。学び方の主体性はもちろん、主体性を発揮するということをしっかり学んでいく。色々な人と協働して形にしていく、行動していくことを学ぶ。そのために必要な学校をつくっていくということを入れても良いかと思う。

原井教育長：義務教育学校について課題はあるかと思う。義務教育学校の校長を経験した人からは、課題はあるが問題はないという話を聞いた。課題をどう解決していくのか、先生方、保護者の方、地域の方と共有してそこを変えていく可能性があるからこそ、義務教育学校は選択肢として適しているのではないかと考えているので、地域の方、保護者の方、子どもたちの意見もしっかりと反映させながら考えていきたい。

小紫市長：基本計画案の部分については大きな方向性の議論をさせていただいたということで、午後の教育委員会で進めていただきたい。

(2) 学校体育施設開放事業の見直しについて

・学校体育施設開放事業の見直しについてスポーツ振興課西課長から説明【資料4】

小紫市長：ご説明いただいたことについて、何かご質問等ないか。

吉尾委員：運動場については、17時までは学童の子が運動場を使っていると思うが、学童ではない地域の子が使っても良いのか。また、夜遅くなってから使うことはできるか。

西スポーツ振興課長：夜間については、夏場の運動場の使用は19時までと想定している。秋から春ぐらいまでは、暗くなってきたら19時以降は基本的には使用できない。また、今回見直しをするのは、学校の運動場の使用方法ではなく、学校体育施設開放事業の内容であり、使う場所や時間帯は事業として指定させていただきたい。

小紫市長：今の学校の体育施設の活用については、一定固定化されていて、なかなか自治会や地域の活動に使えていないという現状があるので、きちんとルールを整備していきたい。ただ、校庭や運動場で地域の子がどのように遊べるのか、学校のルールも含めて、改善しようとするこの制度と合わせて、子どもたちが学校の運動場や体育館をどのように使っていくのかも考えていけば良いのではないか。

中川委員：体育館について、予約が入っているのに実際は使われていないということも

あったので、今回のように使えるようにしていただくのは大事だと思う。学校の体育館の有効活用にもつながる。例えば、半分を学童のサッカー、半分を自治会が活動で使う、というように具体的な団体の話を聞いて行っていただけたらと思う。

レイナルズ委員：子どもが所属する地域のサッカークラブやラグビークラブが週末に学校の運動場を使って練習している。ラグビークラブに関しては参加者が比較的少なく、半分以上という条件は厳しいと思うので、その辺りも柔軟に、状況によって考えていただければと思う。また、年間使用希望日を毎年12月に教育委員会に提出し調整会議を行うということであるが、どれぐらいの期間の予約が可能か。

西スポーツ振興課長：事前予約については、翌年度1年分をまとめて申請と考えている。

小紫市長：基本的には校区の単位で行うが、部活動の地域移行により合同チームができていくことについても配慮があるので、そのあたりは詳細に詰めていけたらと思う。対象となる活動について、スポーツ活動しか書いてないが、文化活動や地域活動はなく、スポーツ活動でないといけないという理解でいいのか、何か理由があるのか。

西スポーツ振興課長：あくまでも社会体育の普及のためということになるので、学校体育施設開放事業の中ではスポーツ活動に限定している。その他の活動については、現状通り、学校と調整をお願いしたい。

小紫市長：文化活動や地域活動についても集約するという考えもあっていいと思う。他に意見がなければ、午後の教育委員会で進めていただきたい。

○閉会宣告

午前11時10分 閉会